

令和 8 (2026) 年 10 月 26 日

保護者の皆様

札幌市立平岸中学校
校長 須藤 勝也

令和 8 (2026) 年度 全国学力・学習状況調査結果について

紅葉の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に温かい御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年 4 月ならびに 5 月に実施されました標記の調査につきまして、文部科学省から届いた調査結果をもとに、本校において、生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために分析を進めてまいりました。このほど、分析結果がまとまりましたので、その概要について別紙の通り保護者の皆様にお知らせするとともに、学校ホームページにも掲載いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 調査の概要

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

（１）調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ③ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

（２）調査の対象

国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年 原則として全児童生徒

（３）調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、数学、英語）
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査（アンケート）
 - ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

（４）調査実施日

令和 8 (2026) 年 4 月 21 日(火) 質問調査、英語「読むこと・書くこと・聞くこと」
令和 8 (2026) 年 4 月 23 日(木) 国語、数学
令和 8 (2026) 年 5 月 13 日(木) 英語「話すこと」

2 「教科に関する調査」結果

【中学校国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

△ 全国平均を上回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

△ 全国平均を上回っている。

「話すこと・聞くこと」

◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」

△ 全国平均を上回っている。

課題

- 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えること。
- 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。
- 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。
- 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすこと。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。

改善の方向

- 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語感を磨き語彙を豊かにする学習活動を充実させる。
- 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方などについて理解を深める。
- 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する学習活動を充実させる。
- 表現の工夫に着目し、書き手の目的や意図を踏まえてその効果を検討したり、より効果のある書き方を考えたりする学習活動を充実させる。
- 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、考えを広げたり深めたりしながら自分の意見をもつ学習活動を充実させる。

〈記号の意味〉		
△	上回っている	+3.1 以上
◇	ほぼ同程度	やや上回っている + 3 ポイント以内
◆		やや下回っている - 3 ポイント以内
▼	下回っている	- 3.1 以上

本校の概要

「数と式」

◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「図形」

△ 全国平均を上回っている。

「関数」

△ 全国平均を上回っている。

「データの活用」

△ 全国平均を上回っている。

課題

● 事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることに。

● 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価改善することができることに。

● 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができることに。

● 必ず起こる事柄の確率について理解していることに。

改善の方向

○ 具体的な数を代入して、事柄が成り立つ場合と成り立たない場合を比較する活動を取り入れる。反例を見つけることで、事柄が常に成り立つとは限らないことを理解し、その理由を数学的な根拠に基づいて説明する力を育成する。

○ 証明の過程を振り返り、仮定と結論の関係や根拠の妥当性を確認する活動を充実させる。また、条件を変えた場合について考察し、既習の性質を活用しながら証明を評価・改善する力を育成する。

○ 日常生活の事象を表・式・グラフに表し、数量の関係を捉える活動を取り入れる。求めた結果だけでなく、用いた式やグラフを根拠として、問題解決の方法や過程を数学的に説明する力を育成する。

○ 身近な事象を「必ず起こる」「起こることがある」「起こらない」に分類する活動を通して、確率の意味を具体的に理解できるようにする。また、必ず起こる事柄の確率が1であることを確認し、確率の基本的な知識の定着を図る。

〈記号の意味〉		
△	上回っている	+3.1 以上
◇	ほぼ同程度	やや上回っている + 3 ポイント以内
◆		やや下回っている - 3 ポイント以内
▼	下回っている	- 3.1 以上

課題

「聞くこと」

日常的な話題に関する内容を聞き、概要を捉えること。

「読むこと」

日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えること。

「書くこと」

社会的な話題に関する内容を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと。

「話すこと」

(やりとり)

言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること。

(発表)

社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すこと。

改善の方向

学校生活などの日常的な話題について、時間の経過や話の展開を示す語句に着目し、話全体の流れや要点を捉える学習活動を充実させていく。

まとまりのある文章を読み、時間の経過や話の展開を示す語句に着目し、登場人物の行動や心情の変化等を捉える学習活動を充実させていく。

社会問題などについての文章を読み、筆者の主張を捉えた上で、その内容に関して、自分の意見を理由や根拠を示しながら書く活動を充実させていく。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の表現や文法の知識を話すことにおける実際のコミュニケーションにおいて活用できるように言語活動を充実させていく。

社会的な話題について聞いて理解した情報を整理し、自分の考えや気持ちを理由とともに伝える学習活動を充実させていく。

3 「生活習慣や学習環境等に関する質問調査」結果

調査結果の中から、本校の3つの「求める生徒像」と特に関連の深い設問を取り上げています。また、全国と比較して気になる傾向を取り上げています。

（1）自ら学び、より良く問題を解決できる生徒

- ・ 学ぶ意欲をもち、目標に向かって努力することができる
- ・ 深く考え、より良い判断をすることができる
- ・ 何事にも積極的に取り組み、自分を表現することができる

本校の課題

・SNS 利用時間の長時間化

全国調査では、平日に3時間以上 SNS・動画等を利用する生徒が約半数（49%程度）に達しており、利用時間が長いほど正答率が低くなる傾向が顕著です。本校では、35%程度と、全国と比較して少ないのですが、過去3年間の間で徐々にこの層が増加しております。特に「4時間以上」の層は、数学等の正答率において、SNS 利用が30分未満の層と20ポイント以上の開きが生じております。

・ICT 活用の質

全国では情報の整理やプレゼン作成に自信をもつ生徒が学力を伸ばしていますが、本校では、「検索・調査」の活用に留まり、図や思考ツールを用いた「情報の構造化」に対する自信に依然として全国とのギャップがあります。

・根拠を伴う記述・説明力の不足

自分の考えを書く・話す際に、その「理由や根拠」を適切に付与する力については、全国平均よりやや伸び悩んでいます。

改善の方向

- ・ 本調査は「SNS や動画視聴」に限っており、ゲームや学習でスマートフォン等を利用する時間を含んでおりません。これらを加えると、更にスマートフォン等の利用時間が多いと推測されます。ご家庭と協力しながら、スマートフォン等の上手な利用について、引き続き、生徒に考えさせる機会を設けてまいります。
- ・ 端末活用は定着（9割以上）しております。ICT 活用の効力感（自信）が高い生徒ほど、全教科でスコアが高いことから、情報を整理する力を育てまいります。
- ・ どの教科でも、発言や記述の際に「根拠は～である」というフレームワークを意識してまいります。

今後も大切にしたい特徴

全国と比較して「肯定的な回答の多いもの」

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」76.1%（全国61.6%）
- 「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」77.8%（全国65.5%）
- とくに国語科、英語科に関わる質問において、ほとんどの項目で全国平均を10ポイント以上上回っております。

肯定的な回答が全国平均を上回る回答は、80項目の質問事項のうち、73項目でした。20ポイント以上上回っている項目もあり、学ぶ意欲や豊かな心の育ちを大いに感じ、嬉しく思います。

（2）豊かな人間性と社会性を身につけている生徒

- ・ 礼儀や規律をわきまえ、行動することができる
- ・ 温かい心もち、人や自然と接することができる
- ・ 心豊かに、しなやかな感性を磨き合うことができる

本校の課題

全国と比較して「肯定的な回答の少ないもの」

- ・ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？」は肯定的回答が94.0%であり、十分な肯定的回答といえるが、全国平均が95.1%であることから、同程度であるがやや少ない。



改善の方向

引き続き、本校の「いじめ防止基本方針」に従い、普段の様子を細かく見守ってまいります。いじめと思われる行為を見つけた場合は、小さなことでも迅速かつ組織的に対応し、保護者の皆様とも連携してまいります。

今後も大切にしたい特徴

全国と比較して「肯定的な回答の多いもの」

- 「自分の意見と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」87.2%（全国比+8.6）
- 「将来の夢や目標をもっていますか」74.4%（全国比+6.8）
- 「友達関係に満足していますか」97.5%（全国比+6.3）

良好な友達関係を築いている様子が窺われます。「将来の夢や目標」については、ここ数年本校の課題としてあげられていた項目でしたが、今年は全国比を5ポイント以上上回りました。総合的な学習の時間等で、進路探究学習をすすめた結果と考えられます。校内の行事や活動はもちろん、地域社会・家庭とのつながりを大切にしながら、自己有用感を高める取組を更に充実させていきたいと思っております。

（３）命を愛し、健康でたくましく生きる生徒

- ・ 明朗で、健康な心身をもちながら鍛え合うことができる
- ・ まわりの人々や社会の幸福・発展のために尽くすことができる
- ・ 生命を尊重し、謙虚で感謝の気持ちをもつことができる

本校の課題

全国平均を下回る回答は見当たりませんでした。上記でも触れたように、SNS・動画視聴の長時間化が健康的な生活を阻害しないよう、今後とも見守ってまいります

改善の方向

「朝食を毎日食べる」「起床・就寝の時間が決まっている」など、ご家庭での過ごし方が安定している様子が窺われます。保護者の皆様に感謝申し上げます。

今後も大切にしたい特徴

全国と比較して「肯定的な回答の多いもの」

- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」 94.1%（全国比+3.3）
 - 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 96.6%（全国比+0.7）
 - 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」 92.3%（全国比+1.3）
- 関連した他の質問においても、総じて高い数値がでております。ご家庭でしっかりお子様を受け止めていただけていることに起因する部分が大きいかと思います。「困りごとや不安がある時に、大人にいつでも相談できる」の質問への肯定的回答も多く、今後も一層、担任、学年所属副担任、SC、相談支援パートナー等、様々な立場から個々の生徒の特性に合わせた支援を行っていきたいと思います。

4 最後に今年度の「学力・学習状況調査」について

- ◇ この結果を踏まえ、生徒の声を聞きながら、より一層生徒に寄り添った形の学習活動を展開することにより学力の向上に努めていきたいと思っております。本校では、今後も機会あるごとに保護者の皆様にご取組の趣旨を説明し、理解を深めていただけるように努力してまいります。各ご家庭におかれましてもご協力をよろしくお願いいたします。

この調査結果に関するお問い合わせは（平岸中学校 TEL 811-9585）まで